

公開特許公報

昭52—106383

⑤Int. Cl. ²	識別記号	⑥日本分類	庁内整理番号	④公開	昭和52年(1977)9月6日
C 09 K 3/00 //		13(9) B 94	6917—4A		
C 08 J 7/00		25(1) C 122	7438—48	発明の数	1
C 08 L 27/12		25(5) K 111	6365—47	審査請求	未請求

(全 5 頁)

④粘着物の付着防止組成物

東京都大田区中央 6—20—21

①特 願 昭51—23427

⑦出 願 人 東洋エアゾール工業株式会社
東京都大田区多摩川 2 丁目28番
24号

②出 願 昭51(1976)3月4日

③発 明 者 篠沢孝紘

⑧代 理 人 弁理士 清水修

明 細 書

1. 発明の名称

粘着物の付着防止組成物

2. 特許請求の範囲

- (1) 低沸点物溶剤にフッ素樹脂を含有せしめたことを特徴とする粘着物の付着防止組成物。
- (2) 低沸点物溶剤がメチルエチルケトン (MEK)、アセトン、クロロセン、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ及びイソペンタンとトリクレンの等混合物の群から選ばれた溶剤 1 種又は 2 種以上の混合溶剤である特許請求の範囲第 1 項記載の粘着物の付着防止組成物。
- (3) 低沸点物溶剤と、フッ素樹脂と、フルロニツク型又はテトロニツク構造中アルキル基を含むポリマー型非イオン界面活性剤の群から選ばれたものから成る粘着物の付着防止組成物。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、気密構造をもつ合成樹脂成形品への粘着物の付着防止を目的とする組成物の改良に関する。さらに詳しくは、エアゾールバルブ、デ

イスペンサーバルブ、アクチエアター等の気密構造をもつ合成樹脂成形品の表面を保護するため保護被膜を形成せしめ、さらに噴霧剤の目詰りを防止する機能を目的とした粘着物の付着防止用組成物に関する。

噴霧剤は化粧品、塗料、農薬など日用品から産業用まで広範囲な分野に使用されている。然しながら噴霧剤の化学的成分等の影響により、エアゾールバルブ、デイスペンサーバルブ、アクチエアター等の気密構造に付着したり、又目詰りしたりして噴霧剤としての商品機能を著しく低下する傾向がある。

気密構造の合成樹脂素材としては、一般的にポリエチレン、ナイロン、デルリン、ジュラコン、ポリスチレン等の樹脂が使用されており、これらから成形されるエアゾールバルブ、デイスペンサーバルブ、アクチエアター等の粘着物の付着防止を改良するため種々な検討が行なわれている。

例えば、米国特許第 3 4 2 9 8 4 5 号明細書にはエチルシリケート加水分解物とポリ醋酸ビニ-

BN